



一箱古本市の様子(2017年)。建物に続く回廊に沿って、箱が並ぶ。店主とお客さんの間で会話が弾む。

ローカルメディアカ Book! Book! Okitama 山形県置賜地方 井上ひさしのDNAを受け継ぐ 本好きの風土が生んだ雑誌

2014年にはじまったBook! Book! Okitamaは置賜地方の3市5町という広い範囲で行われるブックイベントだ。その活動から生まれた雑誌『nda nda!』を紹介しよう。

一箱古本市が各地に広がるようになって、最初に谷根千でのイベントをはじめた私たちが予測もなかったことが次々に起きた。イベントから雑誌が生まれたのもそのひとつだ。

2013年(平成25)には島根県松江市で一箱古本市を主催するBOOK在月(ありつき)が『BOOK在月book』を創刊(18年10月に5号を発行)。翌年には三重県津市の一箱古本市にあわせて『ボンツツキ』が発行されている。このほか各地のブックイベントでフリーペーパーが発行されている。

今回取り上げる『nda nda!』は2017年1月に創刊。14年から山形県の置賜地方ではじまったブックイベントBook! Book! Okitama(BAO)のこれまでの活動を振り返るとともに、「まちの人がすすめる



『nda nda!』1、2号 Book!Book!Okitama 実行委員会発行 各750円(税込)。問い合わせは0238-46-3311(川西町フレンドリープラザ)。

この一冊」を特集した。創刊号の表紙には、東置賜郡川西町の新刊書店「マルシメ書店」の外観が使われた。昭和30年代にタイムスリップしたような写真に惹かれて、手に取った人も多かったはずだ。

川西町といえば、作家の井上ひさしが生まれた土地だ。1987年(昭和62)、井上がこの町に寄贈した13万冊の蔵書をもとにした「遅筆堂文庫」が農業環境改善センターにオープンした。94年には遅筆堂文庫と町立図書館、文化ホールの入る川西町フレンドリープラザが開館。井上が書き込みや付箋をした蔵書を手にとってみる事ができる。2010年の井上の没後も、井上家からの寄贈は続き、別の場所での整理中のももあわせる。この数は約23万冊にのぼる。今年(2018)のBBOは9月22日から16日間、置賜地域の30カ所以上の店や施設で本に関する企画を行った。その締めくくりとなる「読書といも煮の日曜日」(一箱古本市、紙もの市など)は遅



1 遅筆堂文庫の入り口。2 BBOの実行委員。前列左から荒澤久美さん、集貝(しゅうかい)奈津子さん、後列左から加藤美紀さん、仁科亜沙子さん。

筆堂文庫のあるフレンドリープラザが会場だ。今年の一箱古本市には、過去最多の38箱が出店した。

本番に先立ち、6月には『nda nda!』が発行された。特集は「私のおすすめ、この一冊」。地域の人から一箱古本市の店主、イベントの出演者18人が本を紹介している。私も山形県との県境にある新潟のマタギ村を亀山亮が撮った写真集『山熊田』夕書房を紹介した。

このほか、BBOにゲスト出演したフードスタイリストの高橋みどりさんやライターの水江朗さん、文筆家の甲斐みのりさんの寄稿、イメージキャラクターを描いてきたmizutamaさんへのインタビューなどが盛りだくさんだ。

本好きの集まるミニコミ『ほんきこ』が母体になってはじまったことから、BBOのメンバーは本の話をするのが大好き。毎回の会議では地元のお菓子を食べつつ、ブックトークを行う。5回目の今年でBBOはいったん一区切りとなった。しかし、ここで築かれた本好きのネットワークは、この置賜で新しい動きを生み出していくはずだと期待している。

(南陀楼綾繁)